2023年度高校生夏休み国際理解教育特別講座に参加して

私は、夏休みに国際理解教育特別講座に参加しました。この講座は『対立の時代に生きる』『地球温暖化対策』『多文化共生社会』の３つの授業がありました。私がこの講座の中で一番印象に残っているのは多文化共生社会の授業です。

この授業では「多文化共生」と「国際交流」の違いを考え、多文化共生社会を築くためにできることを考えました。

「多文化共生」とは国籍や民族、宗教の違う人々がそれぞれの違いを認め合って同じ社会で生きていくことです。また「国際交流」とは他国の人と交流することでお互いの国についてよく知ることです。

日本では1970年代から「多文化共生」という言葉を使うようになりました。そして90年代にはブラジルなどから多くの日系人が来日し、さらに使われるようになりました。

日本で一番多い移民は中国人です。しかし愛知県にはブラジル人も多く住んでいます。それはなぜでしょうか。それはかつてブラジルへ渡った日本人の子孫たちが帰ってきているからです。ブラジルへの移民は出稼ぎ労働者として1908年に始まり、今では200万人の日系人が住んでいます。ブラジルに渡った日本人たちはブラジルの農業の発展に多く貢献しました。今、日本に来ているブラジル人移民たちはこのことの恩返しのように日本の工業発展に貢献しています。私の家の近くにもブラジル人労働者が住むアパートがあり、朝早くから工場で働いています。今まではそこに住む人たちとすれ違ったりすると何となく怖いなと思っていましたが、この講座を受けて日本への移民が多い背景を知ってからはその怖さがなくなりました。

講座の最後には少人数でグループ討議を行いました。グループ討議では多文化共生社会を築くためにできることを考えました。私は挨拶から始めると良いと思います。いきなり交流しようとするよりも日常的な挨拶から始めていく方がやりやすいからです。たくさん触れ合うのも良いと思いますができることからひとつひとつやるのが多文化共生への近道だと思いました。

この講習に参加して移民のことや多文化共生について深く考えることができました。もしこれに参加しなければ私は一生このことについて考えることはなかったと思います。来年もこの講習があれば参加したいと思います。